

山陰総合

sanin

島根創生の現在地

22県予算

古民家を改修し、起業支援などに活用される島根県奥出雲町三沢の施設「みらいと奥出雲」を拠点に11日、同町に移住したU・Iターン者たちと、地方移住を検討する人たちをつないだオンラインイベントが開かれた。

「自分が挑戦したい分野をすぐに実践できる」「空き家の見学時に大家の参加で「今はすごく忙しい。」

④ 地方移住の加速

さんの人柄が良く、安心して移住できると思った」

移住者たちが魅力を発信する一方、雪かきの大変さ

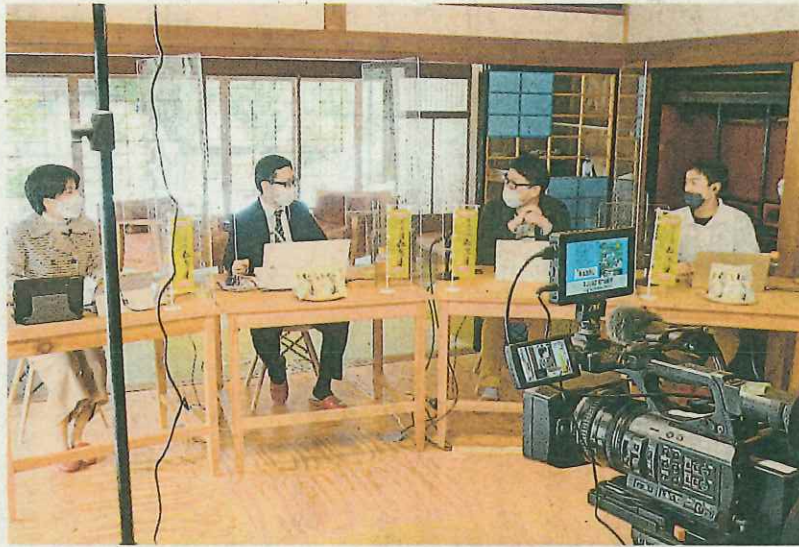
や雪道での車の運転など、積雪地帯の暮らしぶりを、映像を交えて説明。移住検討者たちは「水はきれい」「自治会費は高いか」「消防団には必ず入らないといけないか」とチャットなど

コロナ下での競争に備え

いので、余裕を持った生活をした」と、移住の検討理由を口にする。

目標達成厳しく

新型コロナウイルスの感染拡大で都市部での生活が



しまね移住体感オンラインツアーで、奥出雲町の魅力や生活の実態を発信するU・Iターン者ら—島根県奥出雲町三沢、みらいと奥出雲

しを図ってきた。しまね移住体感オンラインツアーもその一つだ。

ただ、移住の波は、まだ島根へは押し寄せていない。県が毎月発表する推計人口によると、21年度のU・Iターン者数は2151人(4・12月)で、前年度同期比で169人減。

21年9月末に緊急事態宣言が全面解除した後も伸び悩み、このままでは島根創生計画に掲げた21年度の数値目標4048人を達成できないだけでなく、コロナ禍1年目だった20年度の3642人にも届かない見通しだ。

県しまね暮らし推進課の勝部考子課長は「数字は大変厳しい状況だ。一人でも多くに移住してもらいたい。実践的な支援が必要だ」との認識を示す。高まった興味や関心を、実際に移住につなげる次の一手が問われる。

仕事、住まい重視

県が22年度、力を注ぐの

が、U・Iターン者が重視すると分析する「仕事」と「住まい」の相談支援体制の充実だ。

関連事業費は21年度と比べ2億6千万円増加。新規事業では、移住者のニーズと合致する企業の潜在的な求人情報を掘り起こし、つなげるイベントを実施。空き家を具体的にどう改修したかをホームページで発信し、県建築住宅センターと連携して専門的な相談に乗る取り組みも始める。

また、学生のUターンを促す重点地域を山陽方面に定め、就職アドバイザーを大幅に拡充するが、狙いは学生だけにとどまらない。学生がそのまま県外で就職したとしても、通信アプリのLINE(ライン)登録などを呼び掛けてつながり続け、社会人になってからのUターンも呼び込みたい考えだ。

コロナが収束に向かえば、移住者の獲得競争は地方で激化する。実践的な支援が功を奏すかどうか、真価が問われる一年になる。(政経部・原田准史)

〓おわり〓

今週の

△島根ノ 新型コロナノ 延防止等ノ 期間が、確 った。県内ノ 十人規模ノ 業時間短縮 飲食業、相 影響が大きい 長の可否判 が待ち受けを 迎える2で、県民を 長期的な考い。

14日

企業立地計 覚書調印式、 意見交換会)

党勢

立憲民主 井亜紀子代 江市内で定

た。党本部 事長のほか、 民主党島根 連合島根が、党勢拡 の勝利を誓 (2面)